

丸山湿原群保全の会会報

(第 183 号)

発行日：2022 年 (R4) 10 月 19 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します！

なんか本当にきな臭い世の中になってきました。ロシアがウクライナに侵攻し、北朝鮮では度重なるミサイル実験。それに伴う？防衛費の増額。それを「当たり前」「仕方がない」「当然」と捉えるか。考え方はいろいろあるかと思いますが、「必要ない」という意見が聞こえなくなっているのが気になります。

「日本に軍備は必要ない」などと言ったなら「ウクライナのようにになったらどうするの？」と強く批判される、そんな世の中になってきていることを認識する必要があるのではないのでしょうか。「平和ボケ」と批判されるかもしれませんが、どんな意見でも言える世の中であってほしいものです。

あなたは戦争に行けますか？とにかく起こってしまうと取り返しがつかないのが戦争。起こさない努力が最も大事だと思います。では何を…ベラルーシのルカシェンコ（最後の独裁者といわれている？）がプーチンにトラクターを送ったのは「戦争やめよ」のメッセージと考えるのは私だけか…

(今住 10 月 18 日作成)

定期活動 ★9 月 17 日 (土) ガイド研修ツアー IN 「コウノトリの郷公園」 16 名の参加

ガイド研修として「兵庫県立コウノトリの郷公園」へ行ってきました。昨年の企画でしたが「コロナ」で中止。リベンジツアーです。

丸山湿原へコウノトリを呼び込むためにはどうしたらいいか…営巣塔を立てるにはどれくらいの費用がかかるのか。コウノトリが来たときにしっかり説明ができるように研修しましょう。

ではなく、コウノトリが生きていくための土台がどうなっているのかを学ぶことができました。

コウノトリは国内絶滅した種。その最も大きな原因は「食」だそうです。コウノトリは湿地生態系の頂点に立つ動物。昆虫、両生類、爬虫類、魚類なんでも食べる。完全肉食。その量 1 日 1 kg とも。ということは、食べられる側の草食動物も豊かでなければなりません。当然植物も…。さらに土壌も豊かであること。まさしく生態系の多様性。

絶滅は明治以降の乱獲（羽毛採取？）が引き金にはなっているようですが、農薬の乱用、営巣場所となる大きな赤松の消滅、

（里山放置？）化学肥料の多用、そのすべてが生態系の土台を崩していったような。最後は農薬の体内蓄積？による生殖困難。DNA の問題もあるかも…

豊岡市はコウノトリ再生を「まちづくり」の頂点に据え、農業・観光・文化を見直したようです。

コウノトリの郷の中心建物は「豊岡市立コウノトリ文化館」とい



コウノトリ文化館 菅村さん



コンバインに寄り添うコウノトリ

い、コウノトリから文化を見直す施設。「コウノトリだけを見たらだめよ」とガイドをお願いした菅村さんはおっしゃっていました。(と記憶しているのですが…)



谷津田といっても広いビオトープ

以前、初めて野生で生まれた雛が巣立ちする時に見に行ったことはあったのですが、まさしく「コウノトリだけ」でした。今回、文化館から続く旧谷津田（やつだ）を利用したビオトープに案内していただきびっくり。意図的に古い形の緩やかな棚田を再現しているようでしたが、そこにはサンショウモやミスオオバコ、ヤナギスブタなどがわんさか。あぜ道も昔ながらの土手。そこが重要な食糧源になっているかはわかりませんが、生態系土台の保護地になっているのでしょうか。ただ私の勝手な思いとしては、ビオトープとしてではなく田んぼとしてその生態系が維持できないのかなと考えてしまいます。保護のための保護活動が必要なのは、丸山湿原と同じなのですが…やはり昔の生活には戻れないですね。



借景が美しい 多目的室

すぐ近くでは稲刈りの最終段階。「コウノトリ育む米」の収穫中。コンバインが動くすぐ横で、飛び出してくる虫（イナゴ？）をコウノトリが狙っていました。カエルかな？アオサギも一緒に。

文化館の館内では飼育ゲージ（羽を切り出ていけない）を借景として、コウノトリの説明（ガイド）が頻繁に行われていました。時間ごとに担当者が変わる説明ですが、同じ内容なのに個性がありそれぞれ楽しく聞き入りました。（私は3人の方の説明を拝聴）またその合間にはピアノ演奏と歌もあり、まさしく「文化館」。運営&ガイドの「NPO コウノトリ市民研究所」の皆様ありがとうございました。



1960年頃の出石川 有限会社富士光芸社より

さらに、菅村さんにはおまけで出石川までご案内いただきました。（加陽地区大規模湿地再生場所）コウノトリの昔の風景「農家の女性、但馬牛とコウノトリ」の写真の場所付近とか。そこにはフジバカマやタコノアシが普通に咲いていました。恐るべし豊岡市。ぜひコウノトリだけじゃない「コウノトリの郷」へお出かけください。おっとこちらは研修でした。しっかりガイド技術盗めましたか？遊んどったらあかんで～～！



1950年代生まれ中心の参加者たち

定期活動 ★9月25日（日）歩道脇ササ刈り 8名

大阪みどりのトラスト協会視察案内 約30名をご案内

入口から竹筒ポストまでの歩道脇のササが大きく伸びています。本日はその刈り取りを計画。刈り払い機2台と手作業。さらに11時すぎからは視察のお客様のご案内も。作業は順調に進み、歩道からのロケーションもかなり確保できました。湿原内の花が終わり種が落ちるまで、この付近の作業となります。



視察は気にせず作業！

作業する皆さんを尻目に、11時ごろ駐車場へ。「地黄湿地と北摂湿原めぐり」と観光ツアーのようなタイトルがついていましたが、実は「地黄湿地勉強会」。保全先行地域の見学か？

地黄湿地は能勢の標高450m付近にある湿地。（妙見山の裾かな？）私は地黄湿地に行きたくて何度も行くのですが、なぜかたどり着けない。謎の湿地。いつも途中で通行止めになっています。聞くと道を間違えているそう。

ところがバスがなかなか来ない。携帯もつながらないところ。作業が気になりながら、待つこと 30 分。渋滞だったとか。次に松尾湿原へ行かれる予定もあり、端折りながらのガイド（説明？）となりました。大阪公立大学教授の平井規央さんも一緒だったようです。（松尾湿原でハッチョウトンボの調査研究をなさっている？）松尾湿原を見終わった後は能勢に戻り、兵庫県立大学名誉教授の服部保さんのお話もあるようです。服部さんは兵庫県の天然記念物指定に多く関わっておられる。天然記念物にすることによる意義も常にお話しされています。「環境教育も天然記念物でも力説。うちやってますし！

ということは「地黄湿地を天然記念物に！」が目的か？地黄地区（付近？）の方も多く参加されていました。地元天然記念物があるというだけでモチベーションが違いますからね。そうでもない所もありますけど…

でも大阪は天然記念物指定になかなかならないとか。まずは能勢町の指定か？所有者の問題もあるよな。能勢町はどう動く？皆さん頑張ってください！



写真がないのでミドリヒョウモン

ガイドではまた馬鹿話が過ぎて、もともと時間不足なのにオーバータイム。スタッフから「出来たら終わって…」の一言も。松尾湿原さんにはご迷惑かけたかもしれません。申し訳ありませんでした。さらに写真撮るの忘れてて画像はありません。松尾湿原の様子は TEN さんのブログに。ぜひご覧ください。

<https://econet.hisa-hide.com/> ←宝塚エコネット(TEN)HP(PDFの人はここをクリック！)

おっと作業でした。ガイドを終了し作業場所に帰って来た時にはすでに終了。皆さんお帰りでした。そらせやわな～～13時過ぎてたか？（ガイドは2名で行いました。）

宝塚西谷フォーラム ★10月1日（土） 結集5つの生物多様性保全団体 64名の参加

西谷（宝塚市北部地域）で活動する生物多様性保全団体（自然保護団体）が初めて集まりました。ひょっとすると他にもあるかもしれませんが、今回は次の5つにお声掛け。①櫻守の会…武田尾の「桜の園」の桜を原点に市内数か所に活動を広げられています。②宝塚エコネット（TEN）…宝塚自然の家内の「松尾湿原」（宝塚市天然記念物）の保全活動、ゲンジボタルの保護、環境美化など多岐にわたる活動を展開。宝塚市環境学習リーダー養成講座（現 ECO 講座）修了生が設立。③やまもり山里（さんり）…いちばん新しい団体ですが大原野の放棄田（県有地）を整備して見事な湿生植物群落を復活させています。④西谷の森公園ボランティア…公園内でグループに分かれて様々な活動をされています。今回は主に湿地の再生・保全グループに参加願いました。湿地には貴重種などが復活し、年々生物の多様性が増しているそうです。⑤丸山湿原群保全の会…説明省略。



急遽トップバッター水田さん の植物のお話。ひょっとして西谷に暮らす植物を最も愛している人かもしれません。

朝から会員たちがテキパキと準備。セッティングや受付は完ぺき？と思ったのですが丑丸さんの PC との接続がうまくいかない。急遽順番を入れ替えて水田さんからスタートとなりました。YouTube 配信も予定していたのに「始まらないんですけど？」とご連絡もいただきました。申し訳ございません。その後も度々途中

午前中は基調講演。①丑丸敦史さん（神戸大学教授）…田んぼの畔の植物がいかに生物多様性に満ちているかをお話して頂きました。②水田光雄さん（兵庫県生物学会・丸山湿原群保全の会）による西谷



畔（あぜ）植物の多様性を守れと丑丸さん

で画面が消えたりと講演者の皆さんにはご迷惑をおかけしました。接続コードに問題があったようです。(変換プラグ?)

午後は各団体の活動紹介。ここでも同じトラブルはありましたが、無事に最後まで終わることができました。発表内容は驚くほどよくまとめられており、日常の活動の様子が伝わってきました。

最後のまとめとして、パネルディスカッションを実施。あまりうまく進行できませんでしたが、各団体が守ろうとしているスポットが、エリアとなりゾーンに広がることを願い今回のフォーラムを終えました。



各団体の発表 こちらがメイン

ご協力をいただいた皆様本当にありがとうございました。今後も「ゆる〜〜く」でいいのでお付き合い、情報交換お願いします。YouTube のアーカイブでフォーラムの様子がご覧になれます。

フォーラム前半基調講演 <https://youtu.be/ZpLEgyjK3po> (BYコチ)



<https://www.youtube.com/watch?v=RkVPxLchBGY> (BYコチ)

フォーラム後半団体発表、パネルディスカッション



定期活動 ★10月8日(土) 基礎調査 8名で活動

目的	市内	市外
丸山	38	47
ハイキング	28	41
散歩・登山	6	16

来場者数計 176 人
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
入口	10:00	19.7℃		
第3湿原	10:30	【18.1℃】	32.1 μS/cm	6.6
視点場	10:50	19.6℃	25.7 μS/cm	5.8
第1湿原	11:03	【18.9℃】	28.6 μS/cm	6.5
第2湿原	11:37	【17.6℃】	31.2 μS/cm	6.4

降雨量もそこそこ回復して EC も湿原にとって最適の数値になってきました。過去を調べてみると毎年この時期はこれぐらいの数値です。ちょっと安心。

花は少し遅れているようですが、背の低いサワギキョウ(沢桔梗)が見られ、ウメバチソウ(梅鉢草)が咲き出しました。ウメバチソウは今年も豊作のようで東のように蕾が見られます。花期の長い花、楽しみです。

トレイルカメラのデータチェックも。最近自宅でもシカ(鹿)が「ピエーツピエーツ」と鳴いているのが聞こえます。オスです。発情期。やはり増えているのは間違いありません。



第1湿原 シカの王か?

夏場は月に1~3回のご訪問。しかしメスばかりで特に被害も見られず。9月になると途端に増えてきました。この日の朝にも立派な角のオスが来ていました。メスを求めてさまようオス。切ないといえば切ないですが、増えすぎは困ります。加えて画像には写っていませんが、イノシシ(猪)も「豚コレラ=豚熱」から復活傾向が見られます。湿原内に「ぬた場」を発見。残念ながら「スタバ」ではありませんのでご承知を。

トレイルカメラは今年度から設置。まだ冬場の記録はありません。これからどんな状況を見ることができるのか、楽しみやら恐ろしいやら…今後の湿原の存亡にかかわるかもしれません。

今回のオスの動画はブログにUPしています。ご興味ある方はご覧ください。川西や能勢あたりでは普通に見られ、やりたい放題の様ですが、丸山湿原は今のところまだ大丈夫?

小学校環境学習 ★10月11日(火) 西谷小学校3年・4年生 今回は保護者も参加!

紙面不足のため小学校レポートは次回に。いつもとちょっと違う周回コースを歩きました。

次回活動日 10月23日(日) 11月12日(土) 27日(日) 12月10日(土) 25日(日)